

# 山木工業株式会社

## 社会貢献活動取組状況

### ① エコキャップ運動（重点分野：プラスチックゴミ対策）

海洋プラスチックによるごみは、普段私たちが使っているプラスチック製のペットボトルや容器などが、ポイ捨てなどによる適切な処分がなされずに海に流されることが原因であります。プラスチックごみは海洋の汚染だけでなく、海に生きる生物や産業、私たちの体にまで影響を与えます。プラスチック製品は私たち消費者が使い、そして処理を適正に行っていないためにごみとなって海に流れ着いてしまうことが要因であります。



私たち消費者が、プラスチックごみの削減・海洋プラスチックを出さないためには、\*3R実施を心掛ける：「リデュース（Reduce）」（出さない）「リユース（Reuse）」（再使用する）「リサイクル（Recycle）」（再利用する）必要があります。

弊社としましては、“キャップ専用回収容器”を、①本社②小名浜工事事務所③49号線維持工事現場事務所に常時設置しております。

※2020年度重点分野（プラスチックごみ対策）（目標）エコキャップ運動に積極的参加

・・・5回提供出来ました。

・エコキャップ提供



・エコキャップ提供先：(株)近江物産福島



私たちは、日々の生活でプラスチック製品を使い、プラスチックごみを出しています。例えば、お店でもらうレジ袋、プラスチック製のスプーンやストロー、商品のパッケージ等。日本は、一人当たりのプラスチック容器包装の廃棄量が世界で2番目に多い国です。プラスチックの3Rを進めるためには、私たち一人ひとりがプラスチックごみを減らす取組をしていくことが重要であります。

## 熱中症対策の実施（適応分野：気候変動適応策）

### ⑩熱中症ゼロを目指す。（作業所含）

猛暑の中、日中屋外で作業をする建設業は、全産業の中でも“熱中症発症率のリスク”が高い業種であります。熱中症は、気温の他にも湿度や風向、熱の照射、作業内容（運動量）、作業員の体調など総合的な要因によって発症し、高温・多湿な環境下で、体内の水分・塩分（ナトリウム）バランスが崩れて、体に障害が起きている状況（日射病・熱射病・熱疲労・熱痙攣・熱失神など）の総称で、めまいや失神、頭痛、吐き気、筋肉痛などの症状から、意識障害・痙攣（けいれん）・高体温などを引き起こす重篤なものまで様々な症状があり、場合によっては死に至ることもあります。

作業所の主な熱中症対策として、①各種“熱中症対策グッズ・用品”の購入②各作業所での教育実施（安全協議会等）③気象情報の入手④作業現場の環境改善⑤休憩場所の整備⑥水分・塩分の摂取⑦作業中の巡視等あります。

※2020年度適応分野（気候変動適応策）（目標）熱中症ゼロを目指す。

・・・熱中症発生はゼロでした。

・熱中症対策グッズ



・作業現場の環境改善



・安全講習会（熱中症対策等）

